

令和8年度「ぐんま農業実践学校」入校申込書

令和8年1月5日

群馬県立農林大学校長 あて

フリガナ ハルナ タロウ
氏名 棚名 太郎

- ※ 本申込書は、入校選考および研修計画の参考資料として使用します。記載内容は本校運営にのみ利用し、他の目的には使用しません。記入漏れのないよう、具体的にご記入ください。
※ 外国籍の方でも在留資格があれば申込可能です。

1 入校希望コース・講座及び連絡先等

コース・講座	第1希望 野菜専門技術コース 第2希望 野菜基礎技術コース(春夏)	生年月日	(西暦) 1966年10月20日	性別(任意) <input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
住所	高崎市箕郷町西明屋1005			
電話	(027)123-4567	携帯	(090)1234-5678	
e-mail	taroharuna@example.com			

- 1) コース・講座の欄には、希望のコース・講座を記入してください(第2希望まで記入可)。
2) 同一世帯(経営)から同一コースへの申し込みは1名のみとなります。

2 これまでの主な職歴

会社員(通信関係)

- 1) 職歴欄には、これまでの主たる職業(会社員、公務員、農業、自営業など)を記入してください。

3 農業経験および研修歴(該当にチェック)

<input type="checkbox"/> 未経験	<input type="checkbox"/> 家庭菜園	<input type="checkbox"/> 農業経験	年(年間従事日数 約)
研修経験あり(研修先:)			期間: ()
<input checked="" type="checkbox"/> ぐんま農業実践学校(令和5年度 野菜基礎技術コース 秋冬野菜専攻) " (年度) コース)			
<input type="checkbox"/> その他()			

4 所有地(借地除く)があれば記入してください。※1アールは100m²、10アールは1000m²(1反)

無 有(畑30アール、果樹園 アール 水田 アール) 人に貸している

5 現在、保有している農業機械を記入してください。※複数選択可(該当にチェック)

<input type="checkbox"/> トラクター(メーカー、型式等:)
<input checked="" type="checkbox"/> トラック(軽トラック、運搬車を含む) <input type="checkbox"/> 管理機(耕運機、培土機など)
<input type="checkbox"/> 防除機(動力噴霧器、背負式動噴など)
<input type="checkbox"/> その他()

※ウラ面へ続きます↓(農業体験講座のみを希望される方は裏面の記入は必要ありません)

6 【入校を希望する理由】学びたいこと、背景等を具体的に記入してください。

私の実家は農家であるが、父母も高齢のため栽培できなくなってしまった。このまま畠を耕作放棄地にしてしまうのは忍びなく、会社を早期退職して農業に取り組む決意をしました。

しかし、私は子供の頃、親の手伝いをした程度で農業の知識や技術がありません。そこで貴校の野菜基礎技術コースで学びましたが、さらに農業を実践的に学び、品質のよい野菜を作り、農業で収入が得られるようにしていきたいと思い申込みました。

7 将来、希望する農業の業態はどちらですか。（該当にチェック☑）

専業（農業が主たる収入源） 兼業（農業は副業的位置づけ）

8 現在、栽培している主な品目、面積と将来（5年後）の計画を記入してください。

品目	栽培面積（現在）	栽培面積（5年後）
ナス	アール	5アール
ブロッコリー	アール	20アール
トマト	アール	2アール

9 【将来卒業後5年間の計画】を具体的に記入してください。

○栽培方法（露地、施設など）

露地栽培でナス、ブロッコリー
ハウスで雨よけトマト

○機械や施設の導入計画

トラクターは3年後に中古を探し導入したい。 管理機は1年後に購入する予定
ハウスは就農後すぐにたてる。

○販売方法（販路や売り方など）

トマトは直売所に出荷
ナス、ブロッコリーは最初の1、2年は直売所に出荷、その後はJAに出荷する。

○販売目標金額

1・2年目は100万円を目標
3年目以降は300万円を目指す。

10 【農業への意欲】今後就農するにあたっての意欲やあなたの考えを具体的に記入してください。

実家の農地でナスやブロッコリーなどの野菜を栽培し、徐々に収量を増やしながら品質を高め、売上の向上を目指したいと考えています。

農業は夫婦二人で無理のない範囲で取り組み、何よりも農業を継続することを第一に考えています。その結果として、実家の農地を守り続けることができればと思っています。

さらに、自分が育てた野菜で消費者に喜んでいただけるような野菜づくりを目指し、第2の人生として農業に挑戦していきたいと考えています。